

第9次高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画（案）に関するパブリックコメント結果

1 募集期間 令和2年12月4日（金）～令和3年1月4日（月）

2 意見 5件（2名）

No.	項目	意見内容	市の考え方
1	27 ページ 在宅医療と介護の連携	<p>自分の亡父は、市内の病院にお世話になりましたが、昨年リハビリセンターが休止となり、非常に困りました。デイサービスも利用しましたが理学療法的なサービスは十分ではありませんでした。</p> <p>また訪問型の運動療法や嚥下・言語療法もできる方が限られているということで待ちの状態でした。</p> <p>計画（案）としては 抽出されていると思いますが、現実的な課題への対処は前倒しにするべきだと思います。</p>	<p>22 ページ ○地域リハビリテーション活動支援事業 の取り組みを進めるとともに、45 ページ以降の介護保険サービスを効果的に利用していただけるよう、引き続き県や関係機関と連携して介護人材の充実に取組みます。</p>

No.	項目	意見内容	市の考え方
2	29 ページ 地域における支え合い活動の推進	<p>具体的にどの様に進めていくのか分かりにくく感じます。多様な生活支援サービス創出、地域資源の開発には、地域課題、高齢者のニーズ把握の為に地域づくりが欠かせない。</p> <p>『地域づくり』の為に、住民向けの研修会、フォーラム等、住民意識の啓発が、常に継続的に必要です。意識啓発の継続は高齢者の社会参加意識を促す効果や、サロンや100歳体操のお世話人やボランティア等のインフォーマルなサービスの担い手を増やすことにつながる。また高齢者の生きがいづくりになる等、長い目で見た時色々な効果が考え期待される。</p> <p>『住民への継続した意識啓発』が地域を耕し、課題に対しても『我が事』に取り組む人が増えれば、気運も高まり、地域に住民の自発的な仕組みも生まれるでしょう。</p> <p>この課題に対しては P32〇地域福祉活動の推進支援『福祉意識の啓発』で受けているという事でしょうか？</p> <p>継続した住民への意識啓発の記載（項目）があった方が良いのでは？と思いますが、どうでしょうか？</p> <p>地域づくり応援課や磐田市社協等と協力話し合っ方針を決め、市、社協、包括、地区、地域（町）が連携、役割分担し、『地域づくり』を推し進める事が大切だと思います。</p>	<p>29 ページから 36 ページ、①から⑤の項目について総合的に取組むことで、地域における支え合い活動を推進していきます。特に、31 ページ 〇生活支援コーディネーター配置 〇地域ネットワークの構築、32 ページ 〇地域福祉活動の推進支援 については地域の支え合いに欠かせないため、引き続き関係機関と連携しながら取組むことで、継続した住民への意識啓発としたいと考えます。</p> <p>ご意見の中の担い手を増やすという点について、19 ページ 〇生きがい・通いの場づくり支援 や20 ページ 〇社会活動への参加啓発と支援 で、「参加する側」と「支える側」の支援に取り組むとともに、新たに 〇地域の人材育成 の項目を追加しさらに地域における支え合い活動の推進を目指します。</p> <p>追加 32 ページ 〇地域の人材確保</p> <p>関係機関と連携し健康づくりや、介護予防、居場所づくりなどの住民主体の活動や地域活動の担い手となる人材の育成を進めます。</p>

No.	項目	意見内容	市の考え方
3	31 ページ 生活支援コーディネーター配置	<p>2行目生活支援コーディネーターについてとありますが、『…ついて…』ですか？『生活支援コーディネーターは』とか『が』では？或いは、『…について推進？or 配置？』ですか？文章のつながりが不明に感じます。</p>	<p>本市では、生活支援コーディネーターに、地域資源・地域課題の把握などの地域に根差した活動を期待しています。</p> <p>生活支援コーディネーターの活動がさらに充実するよう体制を整えることおよび生活支援コーディネーターが把握した資源を活用して様々な生活支援が創出できるよう、表現を見直します。</p> <p>修正 31 ページ ○生活支援コーディネーター配置</p> <p>地域資源の把握や、住民主体の活動を進める担い手の発掘・養成などを行う生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）が、<u>更に地域課題やニーズを把握できる体制を整えます。</u>また、既存の地域資源を活用するなどして健康づくり、介護予防、通いの場等の生活支援の創出を推進します。</p>
4	33 ページ 高齢者の生活環境の整備	<p>高齢者アンケートに置いて何れの対象者も『買い物・通院』等の移動手段サービスが必要とあります。</p> <p>また、通いの場などへの移動手段も必要とされるでしょう。外出の機会が介護予防、認知症予防にもつながる為、移動サービス・支援は重要課題。デマンドタクシーや有償・無償の移動支援をトータル的に捉えて具体的にどの様にして高齢者移動を支え、環境を整えるのか、見えにくいのですが、どうでしょう？</p>	<p>市全域でのデマンド型乗合タクシー運行の周知や利便性の向上および生活支援の一環として行われる地域のボランティアによる移動支援の取組みを、関係機関と協力して支援する必要があると考えます。</p> <p>本計画では、32 ページ ○地域で行う生活支援事業 33 ページ ○高齢者の生活環境の整備 で高齢者の移動について記載すると共に、42 ページ ○高齢者等タクシー利用料金助成事業 など多様な視点で高齢者の移動手段について支援を進めていきます。</p>

No.	項目	意見内容	市の考え方
5	<p>40 ページ</p> <p>認知症の人やその家族の視点の重視・本人発信支援</p>	<p>『認知症の人の思いを聞き取る活動』とありますが、認知症と診断されたら、誰でも不安になり、恐れ寂しく辛い。そんな『想い』を相談できる窓口、聞いてくれる場所があり、その上で、本人の想いが発信でき、自身の状況に沿った活動場所、居場所への参加となると思います。どうでしょう？</p> <p>せめて、『思い』は『想い』に『聞き取る』は『聴く』活動と記載変更はどうでしょうか？</p> <p>私達住民は介護、認知症になりたくないと思いが、予防に努めても、そうなってしまうかもしれない。そんな病気になる事も、年を取れば当たり前の雰囲気があり、認知症になっても安心した気持ちで暮らすことが出来る地域でありたい。</p> <p>それには認知症の理解と当事者の不安等、心に起きる色々な気持ちを、共感し共有してもらう事が必要です。その上で、本人、家族は、現状を受け入れる事ができる。そして意欲が生まれ、初めてその人の特性が生かされた活動の場所・居場所にもつながるのではないだろうか？そういった心の経緯を気軽に何時でも相談出来る窓口や場所があったら、と思いますが、どうでしょう？</p> <p>また、状況にもよりますが、認知症当事者が相談員でその場にいたら、家族・本人も更に安心できるのではないのでしょうか？</p>	<p>本市では、相談窓口として地域包括支援センターを中心に関係機関と連携し、認知症の人やその家族の相談支援を行っています。国の認知症施策推進大綱においても認知症の人本人とともに行う普及啓発や、本人同士で語り合う「本人ミーティング」の普及など、認知症の人本人からの発信の支援も示されています。</p> <p>地域包括支援センターや介護支援専門員等に寄せられる相談を、本人や家族の支援に効果的につなげられるよう取組みを進めるとともに、現在の相談内容などを踏まえて、まずは認知症の人同士が集い語り合う機会を創出することが必要と考えます。</p> <p>また、本人やその家族の気持ちや心の変化を理解できるよう、「想いを聴く活動」に記載を見直します。</p> <p>修正 40 ページ</p> <p>○認知症の人やその家族の視点の重視・本人発信支援</p> <p>認知症の初期段階では、必ずしも本人に介護が必要な状態とは限りません。認知症の人やその家族の視点に立ち、認知症の人が自分らしくよりよく生きていくことができるよう、<u>認知症の人の想いを聴く活動</u>や本人の得意なことを活かせる活動の場の確保を進め、本人発信を支援します。また、認知症の人同士が語り合う機会を創出し、意見の把握や施策の企画・立案や評価につなげます。</p>